

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第4区分

【発行日】平成30年12月6日(2018.12.6)

【公開番号】特開2018-133926(P2018-133926A)

【公開日】平成30年8月23日(2018.8.23)

【年通号数】公開・登録公報2018-032

【出願番号】特願2017-26424(P2017-26424)

【国際特許分類】

H 02 H	7/00	(2006.01)
H 02 J	3/38	(2006.01)
H 02 S	40/32	(2014.01)
H 02 M	7/48	(2007.01)
G 05 F	1/67	(2006.01)

【F I】

H 02 H	7/00	A
H 02 J	3/38	1 3 0
H 02 S	40/32	
H 02 M	7/48	R
G 05 F	1/67	A

【手続補正書】

【提出日】平成30年10月24日(2018.10.24)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0015】

また、本発明においては、前記電力系統と接続された前記インバータの出力端における交流電圧を測定する交流電圧計測回路を備え、前記太陽電池の出力が所定値未満の場合に、前記インバータ及び前記交流電圧計測回路を介して外部の電力系統の電圧を前記太陽電池に印加してもよい。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0024

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0024】

また、本発明においては、前記電位調整手段が、第一の切替手段と、第二の切替手段とを備え、前記第一の切替手段の一端が前記インバータの直流側の正極に接続され、他端が前記インバータの負極及び前記太陽電池の負極に接続され、前記第二の切替手段の一端が前記インバータの前記負極と接続され、他端が前記太陽電池の負極及び前記第一の抵抗の負極側の一端と接続された回路配置を含んでもよい。これによれば、より確実に、太陽電池の負極側の電位を夜間に高くなるようにすることが可能である。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0034

【補正方法】変更

【補正の内容】

**【0034】**

太陽電池110に接続されたDC/DCコンバータ120は、リアクトルL1、昇圧用のスイッチング素子S1及びダイオードD0を有する非絶縁型の昇圧回路である。

**【手続補正4】**

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0035

【補正方法】変更

【補正の内容】

**【0035】**

リアクトルL1は、一端が太陽電池110の正極に接続され、他端がダイオードD0のアノード及びスイッチング素子S1の高電位側の一端に接続されている。

**【手続補正5】**

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0036

【補正方法】変更

【補正の内容】

**【0036】**

ダイオードD0は、アノードがリアクトルL1及びスイッチング素子S1の高電位側の一端に接続され、カソードがDC/DCコンバータ120の出力端の正極に接続されている。即ち、リアクトルL1及びダイオードD0は、DC/DCコンバータ120の正極側ラインにおいて、直列に接続されている。

**【手続補正6】**

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0080

【補正方法】変更

【補正の内容】

**【0080】**

変形例1-5

図16は、変形例1-5に係る電源システム105の昼間の状態を示す図、図17は、変形例1-5に係る電源システム105の夜間の状態を示す図である。変形例1-5の電源システム105は、前述の変形例1-3と比較して、三相4線スター結線式の商用電力系統と接続した構成が異なり、その他の構成は同じである。このため、前述の変形例1-3と同一の要素には同符号を付す等して再度の説明を省略する。

**【手続補正7】**

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0132

【補正方法】変更

【補正の内容】

**【0132】**

本例の電位調整手段136は、抵抗R1, R2と、三端子リレーRY2とを有している。図29に示すように、本変形例3-2の電源システム302は、DC/DCコンバータ120の出力端の正極に抵抗R1の一端が接続され、この抵抗R1の他端が三端子リレー52のa接点に接続されている。

**【手続補正8】**

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0154

【補正方法】変更

【補正の内容】

**【0154】**

このように本変形例4-2の電源システム402は、前述の実施形態1と同様に、夜間

に、太陽電池 110 における負極の対地電位を正（例えば 113 V D C ）とし、P I D による性能低下の進行を防止できる。

【手続補正 9】

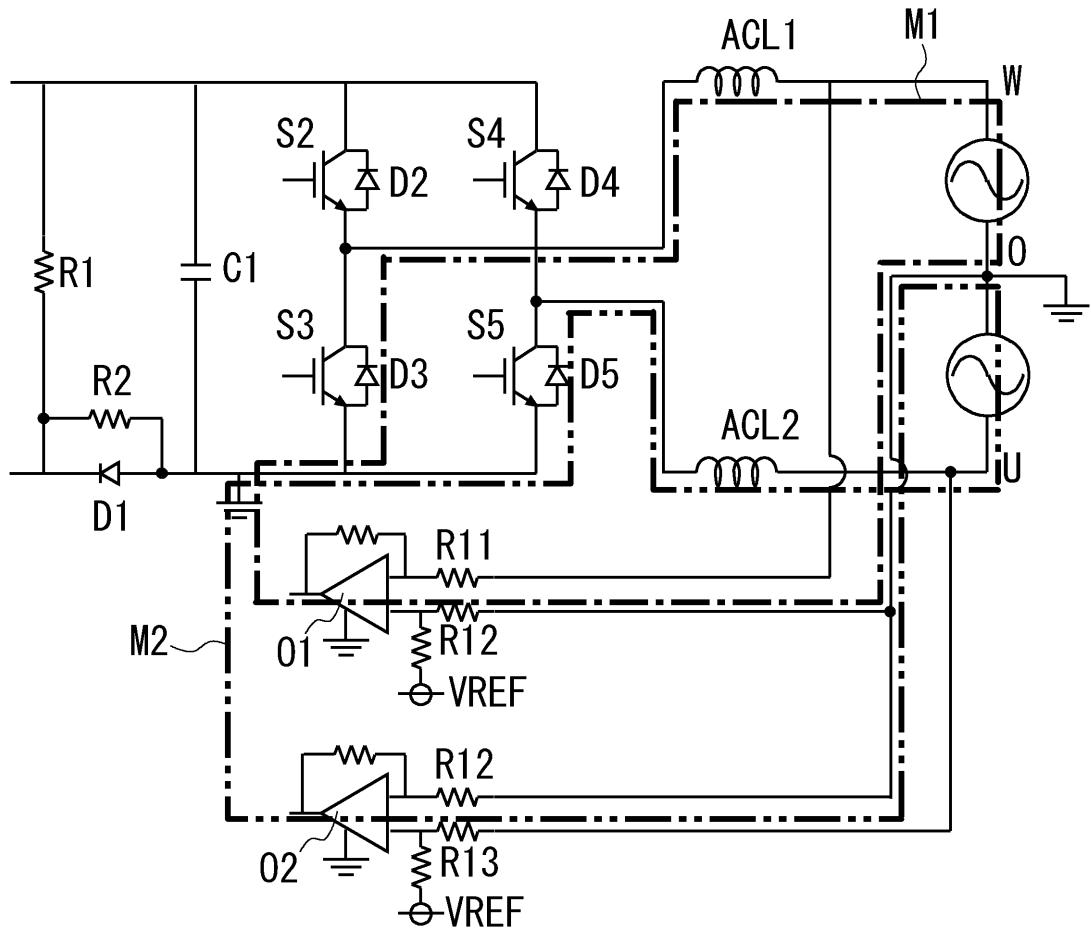
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 4】



【手続補正 10】

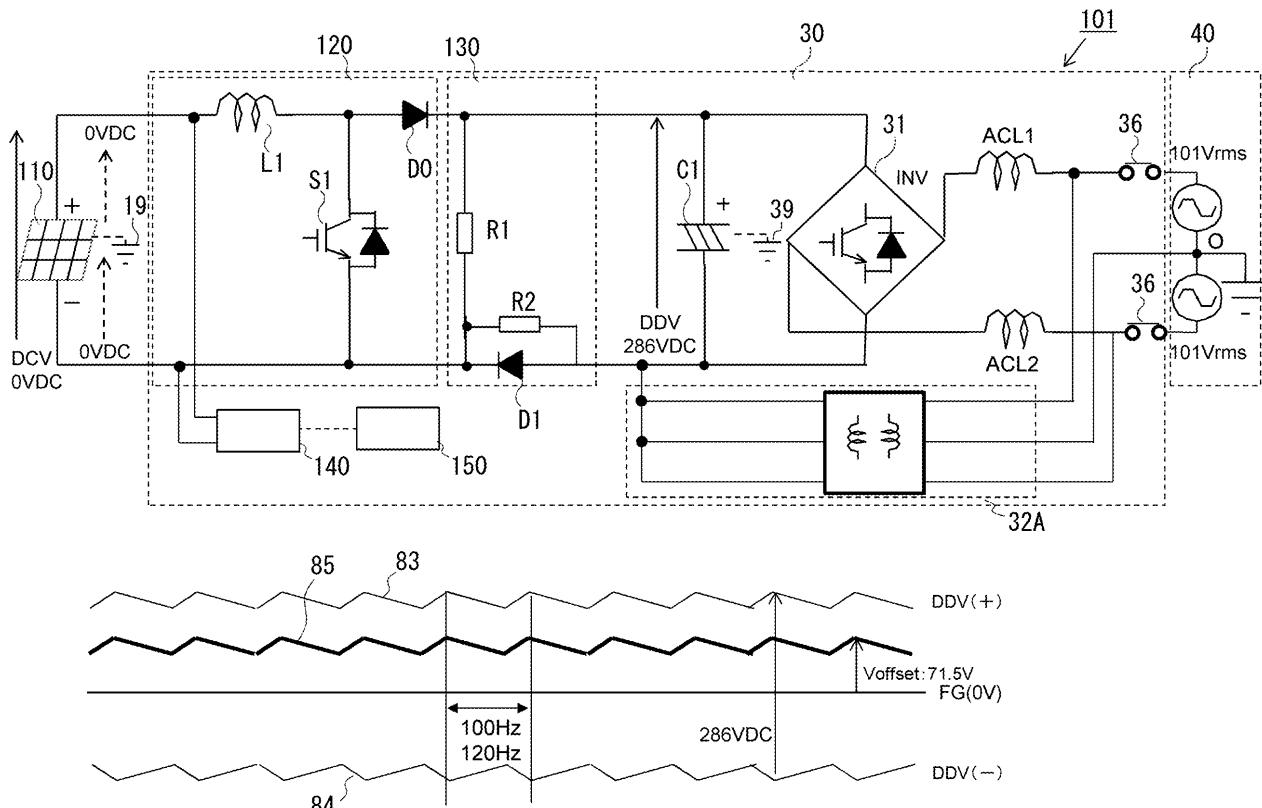
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 11

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 図 1 1 】



## 【手續補正 1 1】

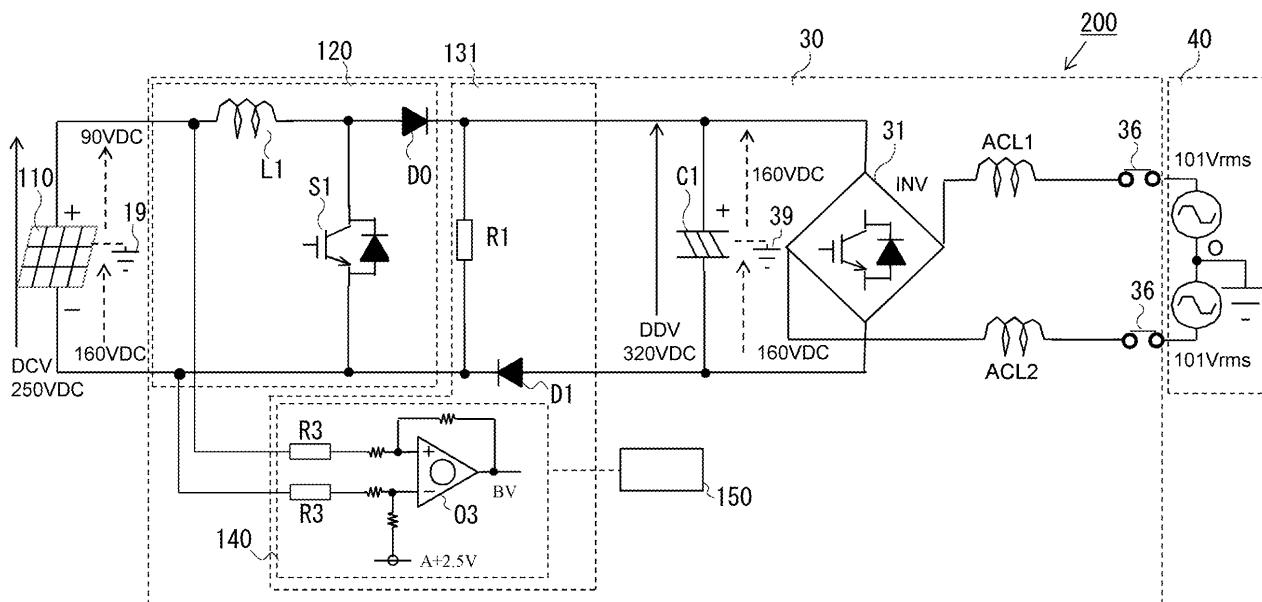
【補正対象書類名】図面

### 【補正対象項目名】図 2-2

### 【補正方法】変更

## 【補正の内容】

〔 図 2 2 〕



## 【手続補正12】

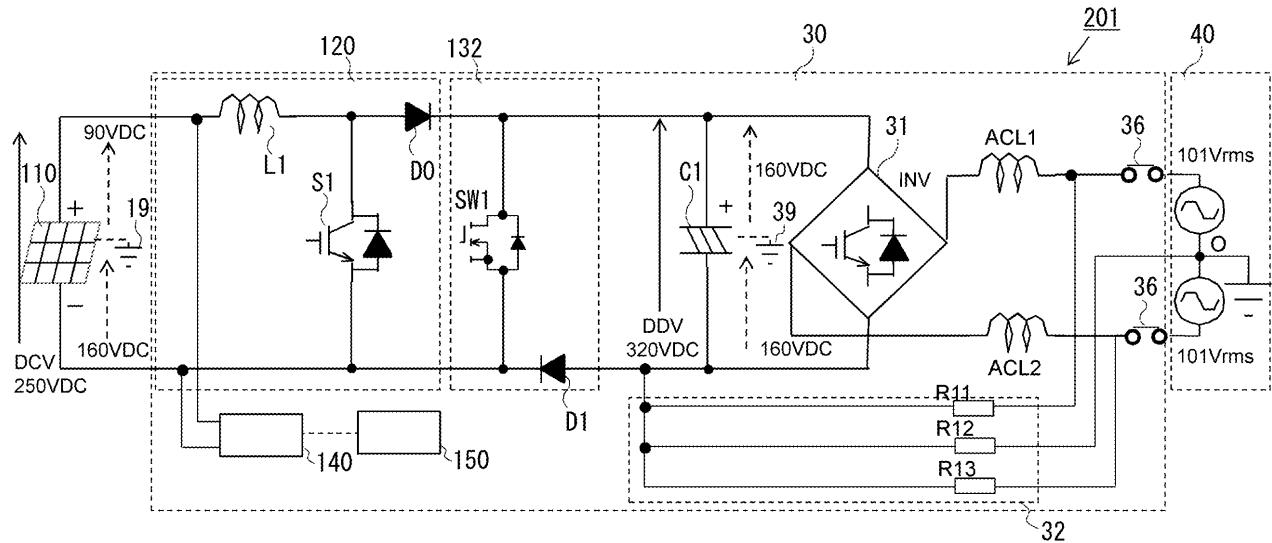
【補正対象書類名】図面

### 【補正対象項目名】図 2 3

### 【補正方法】変更

### 【補正の内容】

【図 2 3】



【手続補正 1 3】

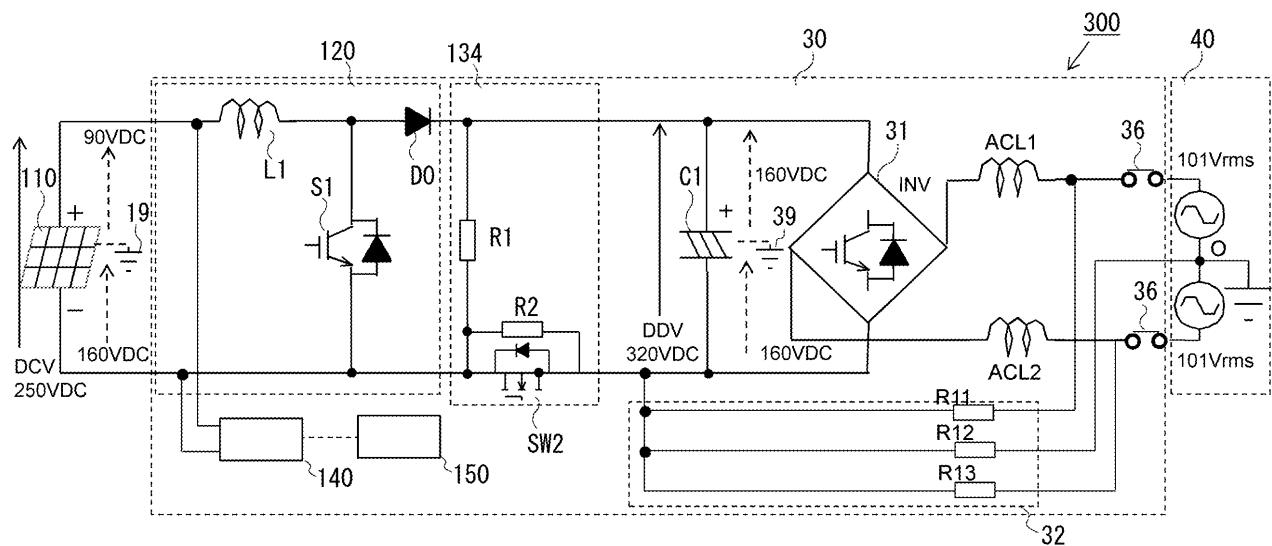
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 2 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 2 7】



【手続補正 1 4】

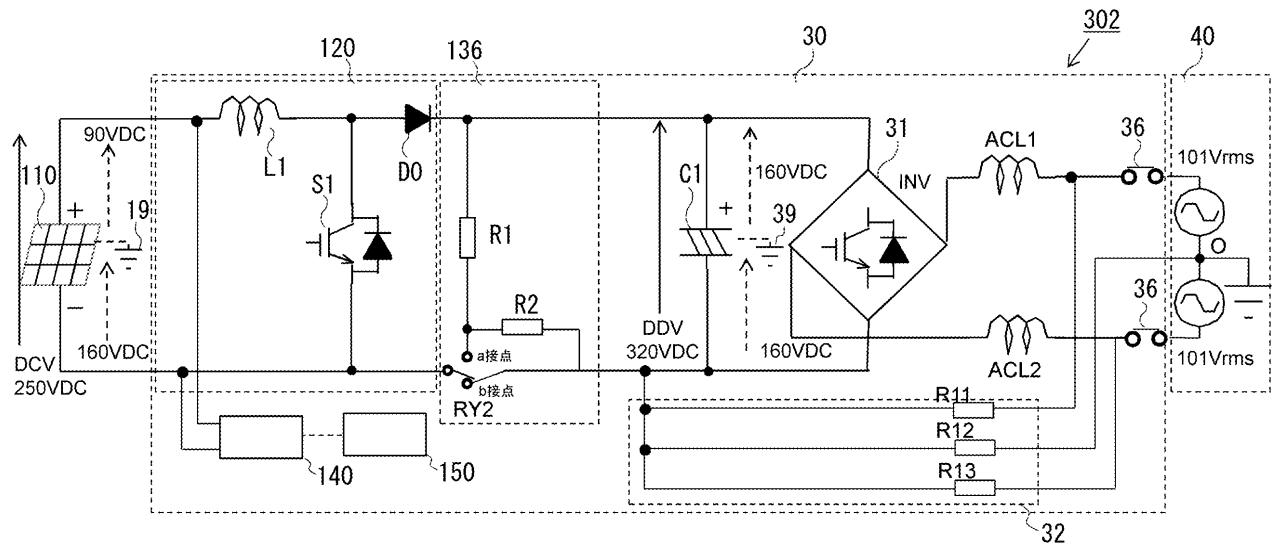
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 2 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 2 9】



【手続補正 1 5】

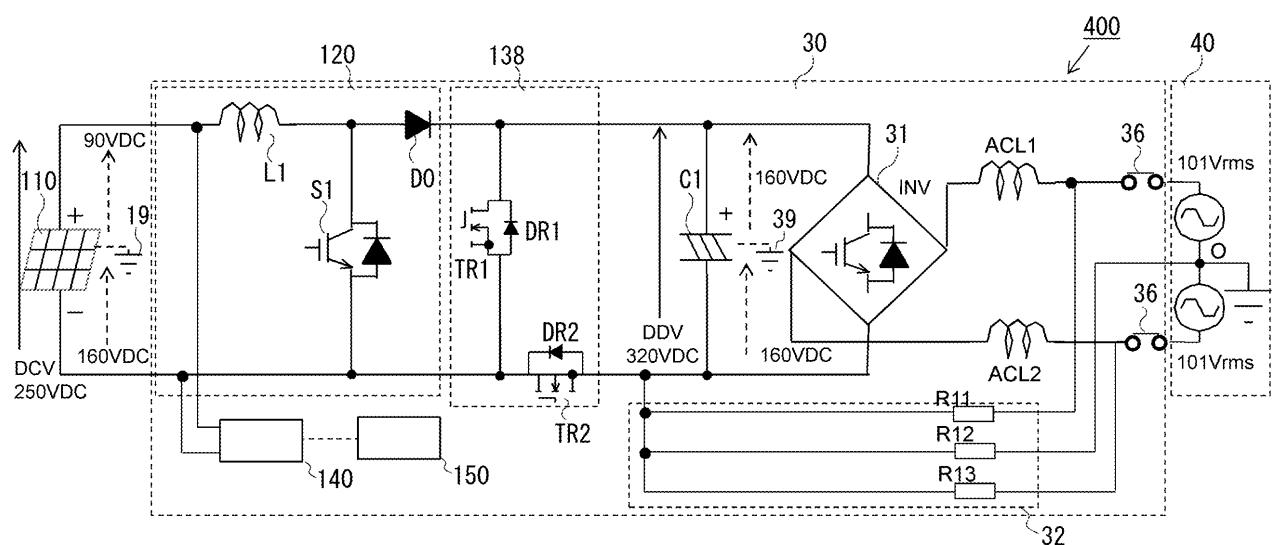
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 3 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 3 1】



【手続補正 1 6】

【補正対象書類名】図面

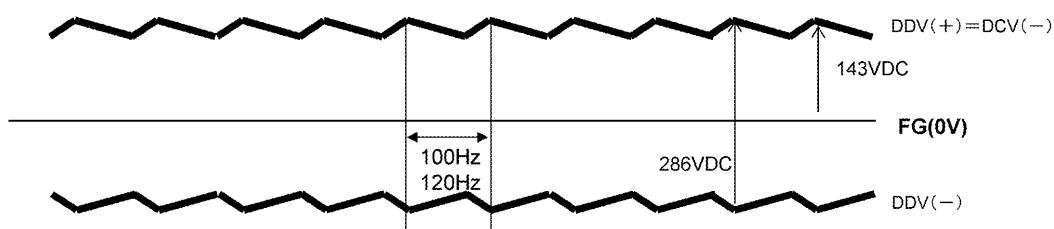
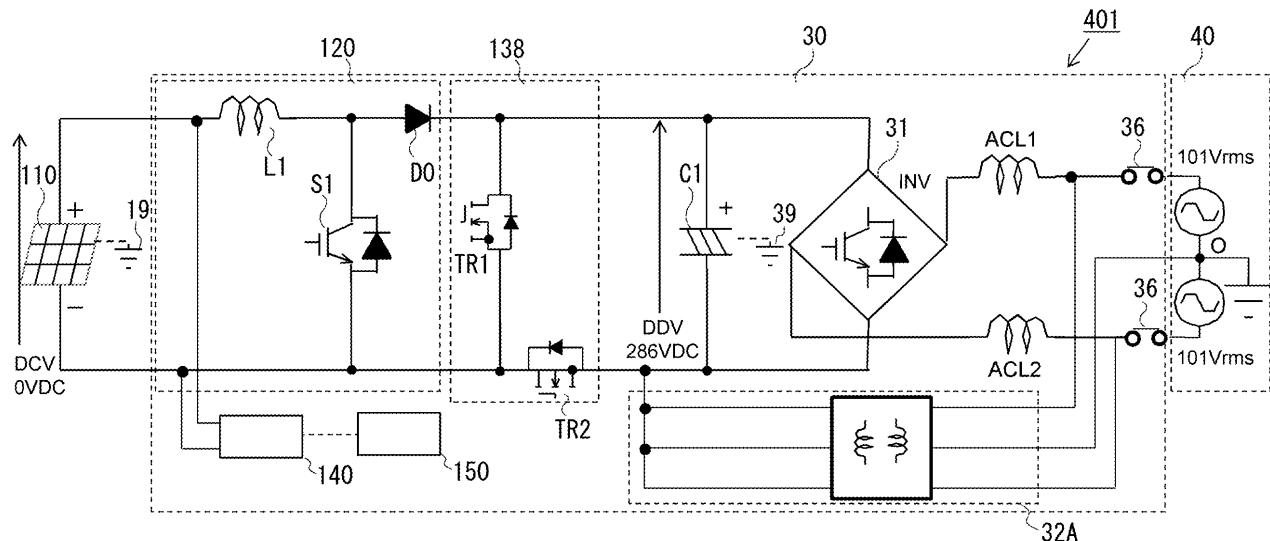
【補正対象項目名】図 3 3

【補正方法】変更

【補正の内容】



【 図 3 3 】



## 【手続補正17】

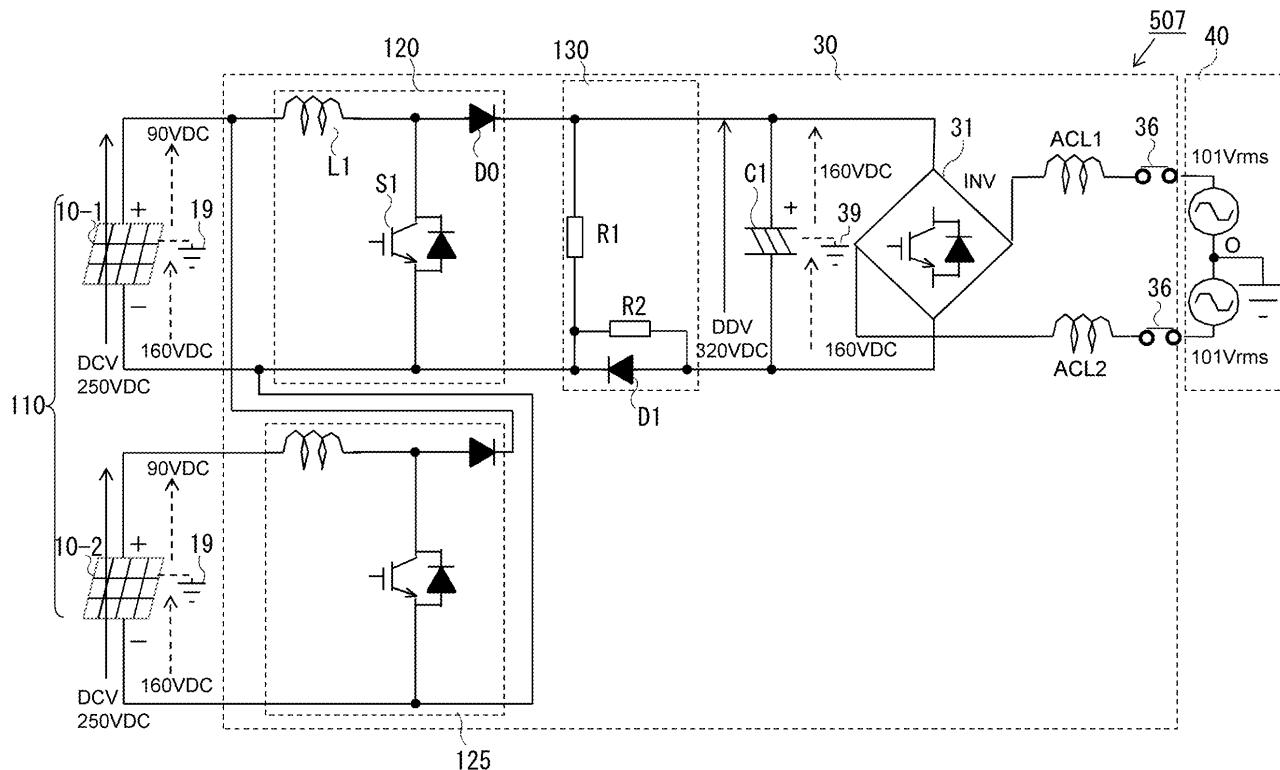
### 【補正対象書類名】図面

## 【補正対象項目名】図 4-2

## 【補正方法】変更

## 【補正の内容】

【図42】



## 【手続補正18】

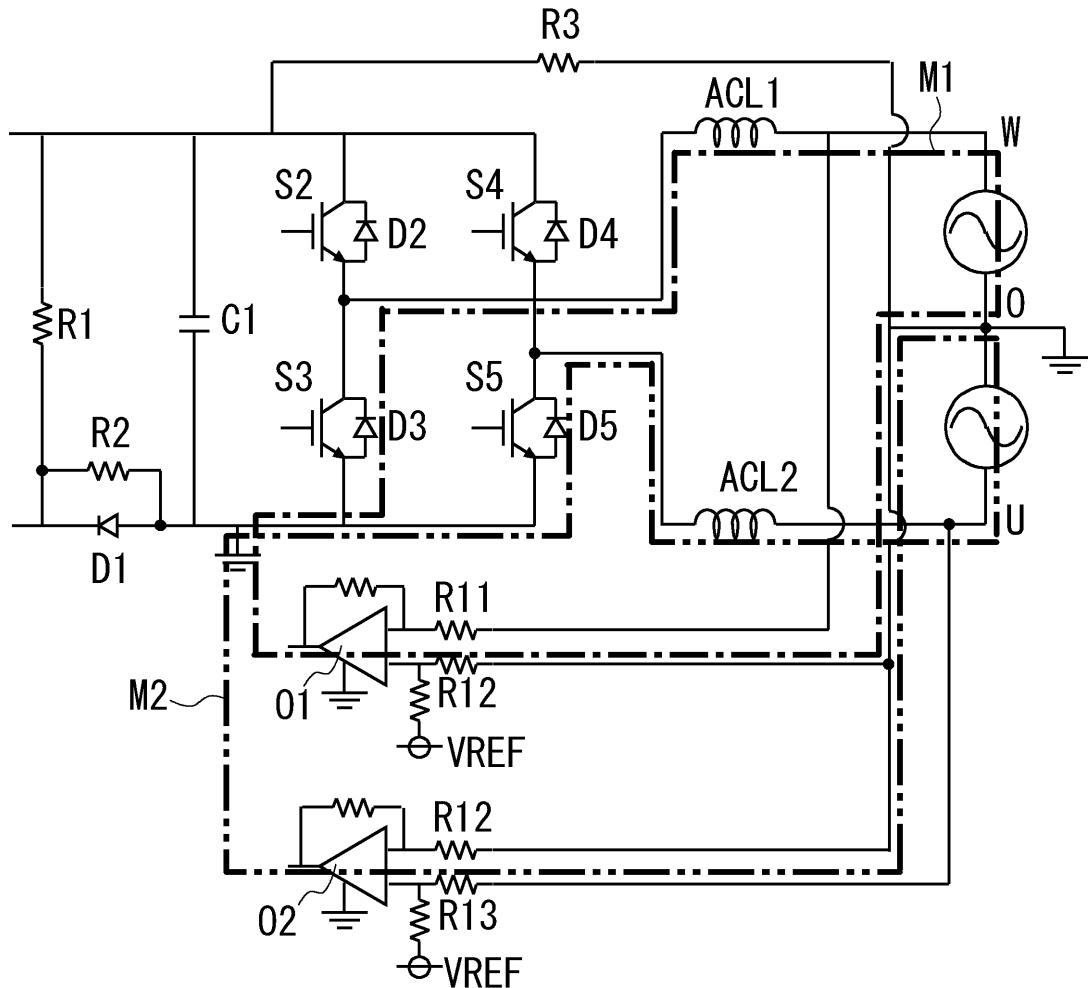
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図25

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図25】



【手続補正19】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図44

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 4 4】

